

授業科目 小児健康障害看護学演習

【担当教員名】 松井 由美子、坪川 麻樹子 他		対象学年	3	対象学科	看護
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【一般目標：G10】 健康問題・障がいを持つ子どもには、病態や発達段階に応じた特徴的な看護が求められる。ここでは健康問題・障がいを持つ子どもとその家族の特徴や看護を概観し、子どものQOL サポーターとしての援助者の役割について考察する。また、子ども特有の症状のアセスメントや代表的な疾患についての事例学習を通して看護診断プロセスを学習する。健康問題を持つ子どもとその家族の権利がどうすれば守られるのか、子どもが生き生きと生活していくためにはどのような援助が必要とされるのか、QOL サポートのあり方をPBLを用いたグループワークを通して深めていく。					
【行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 健康問題・障がいをもつ子どもの特徴が述べられる。 子どもに見られるおもな症状の特徴について述べられる。 特徴的な子どもの疾患の病態生理・診断・治療について説明できる。 健康問題を持つ子どもとその家族のアセスメントを行い、看護診断プロセスを体験できる。 それぞれの疾患を持つ子どものQOLについて考えることができる。 子どもとその家族の権利について話し合うことができる。 自主的に事例学習に参加し、問題解決のためにグループの中で貢献できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	授業ガイダンス、グルーピングと演習課題の決定				講義・GW
2	子どもにとっての病院～入院とその看護			1	講義・ビデオ鑑賞
3	子どもに見られる主な症状と看護			2	講義
4	PBL グループワーク（発表資料作成）			1～7	グループワーク（小児教員全員）
5	小児看護における看護診断プロセス、事例演習			4	講義・演習
6	PBL グループワーク（発表資料作成）			1～7	グループワーク（小児教員全員）
7	子どものQOLと障がい児のケア（重症心身障がい児の看護）			4、5、6	講義
8	PBL グループワーク（発表資料作成）			1～7	グループワーク（小児教員全員）
9	QOL サポート演習～先天異常、新生児疾患を持つ子どもとその家族の看護			1～7	グループ発表・講義
10	QOL サポート演習～呼吸器疾患、循環器疾患を持つ子どもとその家族の看護			1～7	グループ発表・講義
11	QOL サポート演習～消化器疾患、血液疾患、悪性腫瘍を持つ子どもとその家族の看護			1～7	グループ発表・講義
12	QOL サポート演習～代謝性・内分泌疾患、アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患を持つ子どもとその家族の看護			1～7	グループ発表・講義
13	QOL サポート演習～神経疾患、運動器疾患、精神疾患を持つ子どもとその家族の看護			1～7	グループ発表・講義
14	QOL サポート演習～事故、外傷、虐待を受けた子どもとその家族の看護			1～7	グループ発表・講義
15	国家試験対策・まとめ			1～7	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論	奈良間 美保、丸 光恵 他	医学書院	2011・3,300円＋税
参考書		こどもの病気の地図帳 NANDA 看護診断 定義と分類	鴨下重彦、柳澤正義 監修	講談社 医学書院	2002・4,000円＋税 2013
その他の資料					
【評価方法】 PBL プレゼンテーション (40%)、試験 (50%)、出席・態度 (10%)			【履修上の留意点】 PBL ではグループの中で積極的に発現し、全員参加でプレゼンテーションを行いましょう。		